

平成 25 年度入省予定
環境省総合職理工系

「内定者の声」



《はじめに》

本紙は環境省総合職理工系内定者（H25年4月入省予定）が自主的に製作したものです。幅広い人材を求める環境省を皆様に知っていただくこと、環境省に興味を持っていただくことを目的に製作しました。

ここに示した内定者の経験が、皆様の進路選択の一助となれば幸いです。

平成24年11月
環境省総合職理工系内定者 一同

《本紙構成》

* 内定者データ一覧

* 内定者個人ページ

〈項目〉

◆基本データ

（学科/専攻、試験区分、国家公務員試験合格年度、官庁訪問時期、説明会※参加回数）

◆就活のスケジュール

◆自分を表すエピソード/大学生活について

◆趣味、特技

◆志望動機

◆公務員試験/官庁訪問について

◆環境省を志望されるかたへのメッセージ

*編集後記

《付記》

本紙内容に関する責任は、全て製作者である内定者にあります。また、各人の考え方、勉強法などはあくまで個人的な見解です。御理解の上お読み下さい。

本年度の内定者は旧国家公務員I種試験合格者と国家公務員総合職試験合格者が混在しております。試験区分の対応関係などを記しておきましたが、詳しくは人事院HPにてご確認ください。（人事院：<http://www.jinji.go.jp>）

以上のことを十分に御理解の上お読み下さい。

※ 説明会...霞ヶ関OPENゼミ、人事院や大学主催の説明会、
環境省主催の政策シミュレーションなど

内定者データ一覧

《男女比》

男性 4名	女性 1名
-------	-------

《春夏比》

春 2名	夏 3名
------	------

《試験区分》*1

工学 2名	数理科学・物理 ・地球科学 1名	化学・薬学・生物 2名
-------	---------------------	-------------

《学歴》

修士新卒 4名	学部新卒 1名
---------	---------

《官庁訪問時の初回訪問日》

1日目 2名	2日目 3名
--------	--------

《OB訪問の有無》

あり 2名	なし 3名
-------	-------

《その他の進路》 複数回答

民間 4名	公務員 2名
-------	--------

《ボランティア参加経験の有無》

あり 2名	なし 3名
-------	-------

《予備校の利用》

あり 2名	なし 3名
-------	-------

*1 旧国家公務員I種試験の理工Iを「工学」に、理工IVを「化学・薬学・生物」としてカウントしています。詳しい情報は個人のページをご覧ください。

<これは、本年度の内定者に限った結果です。>

基本データ
【学科/専修】
生物生産学科
【学年、性別】
学部4年生、男性
【年齢】
23歳
【試験区分】
理工IV（現 化学・薬学・生物学）
【国家公務員試験合格年度】
平成23年度
【官庁訪問時期】
夏
【説明会参加回数】
4回程度
【併願した省庁（第一クール訪問順）】
農林水産省⇒環境省⇒厚生労働省

【就活のスケジュール】

〈学部3年〉

- 4月 漠然とパブリックな職に自分は向いていると考えて試験勉強開始。
- 5月 筆記試験1次試験を受験、1次通過後も時間がなかったのでひたすら勉強。
- 6月 無事に筆記試験を合格。
- 7～11月 研究室配属はあり、しばらく実験三昧。
- 12～3月 民間企業/公務員の説明会に参加。大学院に進学するか就職か検討する。

〈学部4年〉

- 4月 国家公務員一本に絞ってやることを決意。
- 5月 自己分析を通して自分の将来を描く、面接の練習を重ねる
- 6～7月 官庁訪問を通して成長。環境省から内々定を頂けた。

【私はこんな人です】

◆土壌学

私は土壌学というものを専門としております。マイナーな分野ですが、土というのはさまざまな環境問題（温室効果ガスの発生源、水源、生物多様性 etc）と関連する場所です。

◆懸賞論文/アイデアコンテスト

大学で勉強したことのアウトプットとして懸賞論文やアイデアコンテストに参加しました。賞金がもらえたり、面白い人々に出会えたり自分の人生を少しばかり面白くしてくれました。

◆アルバイト（塾の先生）

小さな塾で高校 3 年生に化学を学生時代の間ずっと教えていました。教えることを通じて人の役に立つことに充足を得たのもよい体験でした。

【趣味、特技】

◆オリエンテーリング/サッカー/わさび栽培

中高時代からオリエンテーリングというスポーツをやっておりました。山の中でスタンプラリーをしてタイムを競うようなスポーツです。

知人らと東京都奥多摩で水わさびの栽培・管理を行っています。山の中での作業は気持ちリフレッシュできます。またこの地域は過疎化が進んでおり地元住民のかたとお話しするとさまざまな問題意識が芽生えました。

【志望動機】

<志望の経緯>

元々、環境や農業に対して関心があり農学部に進みました。そこでいわば‘地球の皮膚’にあたる土壌について勉強していくうちに、‘皮膚’だけを見ても環境問題全体は解決できない、もっと根本的な解決のため関わりたいと考えました。そして最終的に土壌環境だけでなくあらゆる環境問題に対してチャレンジできる職場として環境省を考えました。

また在学中に化学系メーカーの幹部のかたと話す機会があり、どの企業も環境を守るインセンティブを与えられて環境に対する見方が変わったと伺いました。この経験から環境という概念を使ってよりよい社会を形成することができるのではないかと感じました。

さらに環境省職員のかたの環境法の授業を受ける機会があり、行政官に関心を持ち、企画立案を積極的に行ってゆき社会全体をよりよくできる仕事として国家公務員を志望いたしました。

<これからの抱負>

現在、環境省では福島再生関連の業務が急激に増えて未知の問題への対処と膨大な仕事量があります。大変な仕事でしょうが、誰かがやらなくてはいけないなら、よし自分がやってみるかという気持ちで来年からの仕事に取り組んでいくつもりです。

【公務員試験についてのアドバイス】

学部3年生の段階で試験を受けて、学部4年生で官庁訪問に臨みました。

1) 教養試験

教材：高校生向けのセンター試験用の参考書、過去問集など

塾の講師をずっと続けていたので特別な勉強はあまりありませんでした。教養試験の知識分野は高校生向けの学参をおすすめします。しっかり作られていて値段も安いからです。知能分野についてはおおざっぱに考えることも大事だと思います。

マークセンスの場合は解答欄のどれかが必ず答えなので計算問題に関しては①一個ずつ入れて答えを探す②特定の状況（力学において $\theta=0^\circ$ など）から答えの必要条件を導く③消去法で探す、などの方法を駆使して解くとあっさり解けることも多々あります。

2) 専門試験

教材：過去問15年分（大学先輩から頂いた）、大学院試過去問（取り寄せ）

専門試験は配点が非常に大きいので差が付きます。とくに専門試験（マークセンス）で高得点をするには必須でしょう。①過去問を解く⇒②教科書などを参考にして自分で解説を作る⇒③過去の出題履歴、出題者の専門分野の情報から予想問題とその解答を自分で作る、という流れで自分は勉強しました。

3) 論文試験

教材：「論文試験頻出テーマのまとめ方」（実教出版）

小論文（現在の大卒程度試験のみに課される政策論文試験）はどの参考書でもいいのでまず型を学び、次に普段触れるニュースなどに対して自分の意見をまとめて、型にそって書く練習をするとよいと思われます。また頻出のテーマ（国家公務員とはどのようなものか??）については日々のいろんな人と話す中で考えを深めていくと気楽で効果的でもあると思います。

4) 人事院面接

教材：「2013年度版 公務員試験 現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本」（実教出版）

上記の書籍を読むぐらいしかできず、ぶっつけ本番で向かったのが苦戦を強いられました。時間は15～20分程度で試験官は人事院の職員1名、試験区分に関連する省庁職員2名から構成されていました。「農林水産省と厚生労働省は食品の安全という領域において仕事が被っているがこれについてどう思う??」というようなつつこんだ質問も来ましたが、多くは基本的なことが多かったです。

5) 官庁訪問

5-1)官庁訪問全般の印象/工夫

◆官庁訪問というシステムは、採用側と学生の側の相性を計るためにじっくり職員と話そうというものです。官庁訪問を通して各省庁のイメージというものは随分変わると思います。私はおかげさまで素敵なお縁があったと自負しております。

◆面接試験の最も効果的なトレーニングは相手の立場に立つことだと思います。自分が面接官の立場を経験するときさまざまなことがわかると思います。そして、相手の立場にたてるということはいろんな場面が必要なことではないでしょうか。

◆官庁訪問中、私は四谷のホテルにずっと泊まっていました。面接が終わり、ホテルに戻ったら、その日のことをまとめて、次の面接の準備を繰り返していました。官庁訪問は非常にエネルギーを使うのでできる限りしっかり休める環境をマネジメントすることも戦術的には大事だと思います。

5-2)印象に残った面接官とのやりとり

ある課長補佐との面接が印象に残っています。環境省に 2 回目の訪問時の最後の面接官のかたでした。政策立案に関する課題にうまく答えられなかった私に宿題（600page 程度のワーキンググループの資料）をくださり、驚くことに 3 回目の訪問時に再び面接することになりました。

ドラマさながらで、戦場で会ったベテランの兵士に 1 度は情けをかけられて逃げおおせて、2 度目の再戦で辛くもなんとかこれを突破するというようなことが印象的でした。

5-3)失敗した・苦労した点

面接の初めのほうは学部生ということで周囲のかたに対してやや気後れしていた部分がありました。実際は学部生か院生かどうかよりも行政官としてやっていけるかを面接官にはみられていたと思いますので初めからガンガンいきましょう！

【環境省を志望されるかたへのメッセージ】

<環境省の特徴はここ！>

悪く言えば組織がまだまだできあがっていない(1971年環境庁成立、2001年に環境省へ)。しかし、逆にそれはメンバーが開拓すべき領域が多いチャレンジングな省庁だといえます。そして、「環境」という曖昧な概念に対して、政策立案を通して定義し、価値を与えていくことのできる省庁ではないかと思います。

<最後に一言！>

環境省の説明会などに是非一度いらして職員のかたとじっくり話してみてください。なんとなく抱くイメージとずいぶん違うと思います！

基本データ
【学科/専修】
材料工学専攻
【学年、性別】
修士課程 2 年、男性
【年齢】
24 歳
【試験区分】
工学（院卒者）
【国家公務員試験合格年度】
平成 24 年度
【官庁訪問時期】
夏
【説明会参加回数】
4 回
【併願した省庁（第一クール訪問順）】
経済産業省⇒環境省⇒文部科学省

【就活のスケジュール】

〈学部 4 年〉

8 月 院試と留学準備のため就職活動のことは一切考えず。

〈修士 1 年〉

12 月 民間の説明会に参加し、就活を始めた気になる。

1 月 民間のエントリーが開始し、志望動機等を真剣に考え始める。

2 月 自己分析を重ねる内にやりたい仕事の方向性が定まる。

3 月 本省主催説明会に参加し、国家公務員を本格的に目指す。この頃から国家総合職試験の勉強を始める。

〈修士 2 年〉

4 月 毎日研究室のコアタイム後(17 時以降)に試験勉強をすることが日常化。

5 月 試験期間中だが周りの人が皆就活を終え、若干焦る。

6 月 官庁訪問期間は不安を自信で打ち消せるよう、入念な事前準備を欠かさないように心がけた。

【私はこんな人です】

◆多様な価値観の共有が楽しい。

私はカナダのバンクーバーで生まれ、10歳まで現地に住んでいました。そのためか、異なる言葉や文化、考え方を持つ人々と意見を交換して価値観を共有することに充実感を感じるようになりました。

◆家庭教師を続けて早5年。

気付けば家庭教師というアルバイトを通して接した生徒は10人を超えました。子供には理屈が通じないことがあり、苦手としていましたが最近は子供の思考パターンも分かってくるので、楽しく接することができるようになりました。

◆専門外の分野にも興味を持つ

高校時代に政治経済をまともに勉強していなかったため、最近は政治経済関連の本を読むたびに新しい発見があります。研究の良い息抜きとなっています。

【趣味、特技】

◆映画鑑賞/テニス/ランニング

晴れの日には外でスポーツをし、雨の日には部屋でDVDを見るのが好きです。本当はテニスをもっとやりたいのですが、使えるコートが見つかりません。誰か良い場所を教えてください。

【志望動機】

<志望の経緯>

幼少期は人間社会と自然が共存する街、バンクーバーで過ごし、中高生時代は静岡県の山と川に囲まれた自然豊かな土地で育ちました。東京に出てきて間もない頃、自然の緑を目にする機会が減ったことに少なからず寂しさを感じたことを覚えています。

社会活動を活発化するための都市化に伴う土地開発は合理性の面から考えて当然であると考えられますが、それが限度を超えると逆に社会活動の大きな後退を招きます。公害問題がその最たる例です。人間による社会活動と自然環境との競合の中で、私は自然との共生を目指す立場で豊かな社会作りに携わりたいと考えるようになりました。環境省であれば、公正な立場で社会に対して大きな影響力を発揮することができると思え、志望しました。

<これからの抱負>

環境影響評価を適切に行うことによって社会にとってマイナスとなるような事業を無くすと同時に、誰もが自然との共生を目指した考え方に基づいて行動できるような世の中にしていきたいと思います。

【公務員試験についてのアドバイス】

1)教養試験

- ◆「速攻の時事」、「公務員試験 国家総合職教養試験問題集」、「国家総合職教養試験過去問 500」、「技術系スーパー過去問ゼミ 工学に関する基礎 (数学・物理)」を使用しました。
- ◆「速攻の時事」は通学中の電車で読み、「教養問題集」と「工学に関する基礎」を日替わりで解いていました。「過去問」は解説書として使っていました。

2)専門試験

人事院に開示していただいた「過去問」と大学院入試の問題を使用しました。

共に詳しい解説は無かったため、分からない所は周りの人に聞いたり、自分で調べたりして知識を付けました。

3)グループディスカッション

普段から研究室のゼミでディスカッションはしているため、特に対策はしませんでした。

4)人事院面接

予備校を利用し、面接対策を2回していただきました。遠慮なくダメな点を教えてくれるため、大変参考になりました。

5)官庁訪問

5-1)官庁訪問全般の印象

私はエネルギー政策に関して興味を持っていたため、関連の新聞記事や簡単な書籍を読みました。官庁訪問ではその場の思いつきだけで答えてしまうと簡単に反論されてしまうため、事前に考えをまとめておくことが大事です。

5-2)印象に残った面接官とのやりとり

最初の面接でいきなり厳しいご指摘をいただきました。一つの専門分野に固執せず、広い視野を持つことが必要とされていることを思い知らされました。

5-3)失敗した・苦労した点

官庁訪問期間中に研究室旅行に出かけてしまい、準備不足のため翌日の面接で苦労しました。しかし後悔はしていません。

【環境省を志望されるかたへのメッセージ】

<環境省の特徴はここ！>

職員一人一人がそれぞれの考えを持っており、自分の信念に従って仕事をしているという印象を受けました。「環境」と名の付くすべてに関わることができるのも環境省の魅力ではないでしょうか。

<最後に一言！>

自分の専門性にとらわれず、幅広い知識を身につけることをお勧めします。普段話さないようなテーマで友達と意見交換をしてみると何か新しい発見があるかもしれません。

基本データ
【学科/専修】
物理工学専攻
【学年、性別】
既卒、男性
【年齢】
25 歳
【試験区分】
数理科学・物理・地球科学（大卒程度）
【国家公務員試験合格年度】
平成 24 年度
【官庁訪問時期】
夏
【説明会参加回数】
2 回（サマートライアル&1 次試験合格後）
【併願した省庁（第一クール訪問順）】
外務省⇒環境省⇒お休み

【就活のスケジュール】

〈学部 4 年〉

進学率ほぼ 100%の学科だったため何も疑うことなく大学院へ進学。就職は推薦でメーカーに行って研究開発に従事するのかな、となかば他人事のように考えていた（反省点その 1）。

〈修士 1 年〉

12 月 民間説明会（主に製造業）参加。推薦で就職するつもりだったため数社しか参加せず（反省点その 2）。

〈修士 2 年〉

6 月 学科推薦枠で某メーカーの面接を受ける。

一方で、進路に疑問を感じ始める。そしてなんと、面接に落ちる。

みんなより 1 年ほど遅れてようやく進路について本気出して考えてみる。

→環境省サマートライアルに応募。

8 月 サマトラに参加し、自分はモノづくりより制度作りがしたいのでは…と気付く。

9 月 諸々の結果、中退を決意。公務員試験（経済職）の勉強を開始。

〈中退後〉

- 1月 就職できるのかという不安から周りが見えなくなり、悪い評判もある民間企業にエントリーしたら「この4月からでも来てほしい」と言われる。家族や友人の熱心な説得により、お断りする。
- 2月 民間企業（金融機関、商社）にエントリーする。どこか内定くれるだろうと甘く見て他の業界について調べたりせず（**反省点その3**）。
- 4月 経済職の試験に自信が持てず、結局は得意分野の数理科学・物理・地球科学で出願。
- 5月 大学職員（学校法人）という仕事があると知り、まだ間に合う説明会に参加。
- 6月 20社ほど受けた民間からは内定をもらえぬまま国家公務員試験に最終合格し、首の皮一枚つながる。背水の陣を敷いて官庁訪問へ。
- 7月 某学校法人の選考日程が官庁訪問と重なり、同時進行でこっそり受ける。環境省から内々定をいただけたため、学校法人の最終選考を辞退。長かった就活終了。

【私はこんな人です】

◆お話し好き

とにかく人と話すのが好きです。いろんな人といろんな話ができるように、引き出しを常に増やすように心がけています。もともと好きだったクラシック音楽や旅行に加えて、大学に入ってからはおいしいお店探し、美術館めぐりから言語学、経済学、フランス史までいろいろな分野をかじっては、会話の種作りに励んでいます。

【趣味、特技】

◆旅行

アルバイトをしてお金をためては旅行で使い果たす、というサイクルを送ってきました。海外ではヨーロッパが特に好きで、現実から目を背けたくなるたびに出かけていました。旅先で出会った人と一緒に食事を、なんていうイベントがたまに発生するのが醍醐味ですね。

◆ピアノ

物心ついたときからピアノを弾いていて、大学に入ってから練習不足でどんどん腕が落ちていますが、時間を見つけてはちょこちょこ触っています。今はカプースチンという作曲家がマイブームで、彼の曲だけを演奏する演奏会を企画しているところです。

◆その他：お酒、囲碁、散歩、読書（基本的にインドア派）

【志望動機】

「これは安全、これは危険」「〇〇は環境に悪い」。この言葉の意味を考えたことがありますか。言葉だけがひとり歩きしていないでしょうか。こういった問題は一人一人が考えた上でその是非が判断されるべきものなのです。しかしその際には、判断の基準となる専門的な知見を噛み砕いて国民一人一人に説明し、その内容を理解・納得してもらう必要があるでしょう。このように両者を結ぶパイプとなって国民全体の環境リテラシーを高めたい、特に今はそういう時期である、と感じて志望するようになりました。

【公務員試験についてのアドバイス】

1) 筆記試験

教養試験は知識分野については市販の参考書と過去問を利用しました。専門試験については教材が少ないかと思いますが、工学や数・物・地ではおおむね大学院入試レベルなので、工学系の院試の過去問を見直したりしました。進路に迷っていて大学院も考えている、という人は院試対策が公務員試験対策にもなります。

2) 官庁訪問

2-1) 全般

面接で気を付けることについては民間も省庁もさほど変わりないですが、官庁訪問では（省庁によって異なるものの）1日に4名程度の職員の方とお話することになると思います。携わっているお仕事の内容は皆さんバラバラなので、興味のあるトピックは複数用意してくと様々に対応できると思います。趣味の話で盛り上がりやすくなることもあるので、ネタは多い方がいいです。

2-2) 印象に残った面接官とのやりとり

「最近のニュースで気になったものを教えて。ただし環境問題以外で」と言われたことがあります。趣味全開で整備新幹線の着工認可について熱く語ったところ、なぜだか高評価でした。「面接用じゃないネタも持っている」という点がかえってよかったのかもしれない。

2-3) 失敗した・苦労した点

最終段階の面接でうっかり口が滑って「『省益』にとらわれて政策決定をすることは無いのか」と尋ねてしまって冷や汗をかきました。

【環境省を志望されるかたへのメッセージ】

<環境省の特徴はここ！>

同期を見ても先輩職員を見ても、いろんな人がいます。これが多様性か、と思わされました。簡単に言えば変わった人が多いです。加えて組織が小さいこともあり、硬直せずいつまでも柔軟な議論ができるのでしょう。興味があったらぜひいろんな人に会ってみてほしいと思います。

<最後に一言！>

ご覧のように私は学生時代、就活・社会・人生をナメきっていました。その結果、要らない苦勞をしたなあと感じています。今でも当時を思い出すと辛く苦しいことだらけだったのですが、あえてむりやり前向きにとらえるならば、「なりふり構わずできることをやらなきゃいけないときがある」「後悔しても何も進まない」ということを本当の意味で実感できたことが今度の糧になるだろうと信じています。そんな私がエラそうにアドバイスなんてできたものじゃありませんが、少しだけ。

1 つは「早めに行動すべし」です。何もしなくても時間は過ぎていきます。「そんなこと言われなくてもわかっているわ」と思った人、危ないです。

その一方で逆説的ですが、「もう手遅れだ」ということはありません。江川や菅野のドラフトのように、いま納得できないのならば次の機会を狙うこともできるのです。過ぎたことを悔やんでも仕方ありません。次のチャンスを活かすために何ができるか、と切り替えられる柔軟な考え方を持っていてください。

基本データ
【学科/専修】
都市環境工学専攻
【学年、性別】
博士前期課程2年、女性
【年齢】
23歳
【試験区分】
理工I（現 工学）
【国家公務員試験合格年度】
平成23年度
【官庁訪問時期】
春
【説明会参加回数】
5回程度
【併願した省庁（第一クール訪問順）】
環境省⇒経済産業省

【就活のスケジュール】

〈学部4年〉

- 5~6月 学科のクラスメートの中で、公務員試験受験ラッシュ
【（公務員試験ってなに??）】
- 10月~ 学科でやっていた国家公務員試験対策のゼミに参加してみるも、プリントをもらって帰るだけで、ほとんど解かず
【（もし合格すれば、進路の選択肢も増えるかなあ…でも全然勉強の時間がとれない…）】
 同時に、説明会にも参加し始める
【（ん?? お話を聞いてみるとなんかすごくワクワクする仕事だ!!）】
- 2月 **【（そろそろやらなあ（汗））】**
- 3月~ だめもとの試験勉強・出願
【（こんなんじゃ受かるのかなあ…(> <) 今年はやめて来年にしようかなあ…）】
【（でも、この頃には国家公務員への思いが募り、第一志望にすることを決めていました）】
- 5~6月 受験・ぎりぎり合格
【未だに、「採点ミスでした」という通知が来るのではないかと、ときどきしています】

〈修士1年〉

- 9月 環境省のインターンシップに応募するも、受け入れ不可に
- 11月 環境省のインターンシップにリベンジして、今度は受け入れていただくことに。
2週間、環境経済課でインターン
【(すごく勉強になった! 職場の雰囲気も自分に合っているみたい!)】
- 12月~ 民間・省庁の説明会や、就活関連のセミナーに参加する
【社会見学のつもりで、幅広い業種の説明会に楽しんで参加していました】
- 1月~ 官庁訪問対策、民間のエントリーシート提出
【(エントリーシートはもっとたくさん出したいけど、官庁訪問の対策も後悔なくやりたい…! イチかバチかで思い切って民間を絞ろう!)】

〈修士2年〉

- 4月 民間面接、官庁訪問・内々定
【官庁訪問初日の午前中、内定解禁の直後も、東京で民間の面接を受けていました】

【私はこんな人です】

◆アルバイト

接客の仕事が好きで、ハッ橋店&カフェ(京都らしいことしておきたい!)
→アパレル(お洋服が大好きで&お客様との関わりが強い仕事に挑戦したくて)
→ブライダル(究極のおもてなしの場だと勝手に考えています)、と色々なアルバイトをしてきました。「来店前より少しだけでも幸せになって帰っていただくおもてなし」を目指し、日々邁進中です。

◆研究

マレーシアにおける低炭素社会の構築に関する研究をしており、現地にも2か月に一度くらいの頻度で行かせていただいています。(マレーシア食べ物美味しくて大好き!)

【趣味、特技】

◆趣味

接客のアルバイトが半分趣味のような感じです。そのほか一人でぶらぶらするのが好きで、世界中から参加者が集まるベトナム縦断旅行に一人で参加したりしていました。

◆特技

中学・高校時代は吹奏楽部でフルートをしていました。大学に入ってから友達と合わせたりして楽しんでいます。

【志望動機】

<志望の経緯>

私は、人々の意識や行動を環境に良い方向へ自然に向かわせるようなインセンティブを与える取組や制度の策定に携わりたいという思いで、環境省を志望しました。

もともとは小学生の時に環境問題について知って以降、「環境問題を解決するのが私の使命だ」という思いを持ち続けてきました。しかし研究や環境省でのインターンシップの経験を通して、自分が今まで環境一直線の偏った考え方をしていたこと、本当に幸せな社会をつくるためには環境だけでなく社会の多様な要素を関わせた上で判断することが必要であること、そして現状ではまだまだ人々が環境に良い行動をとるインセンティブが足りていないことを実感しました。この経験から、自ら多様な利害関係者の意見を集めて共に協議ができ、また日本・世界の幅広い主体の意識や行動に働きかけることのできる「国」の立場から環境問題に携わりたいという気持ちを強くしました。

<これからの抱負>

- ◆特に地球温暖化対策の分野において、制度策定と意識啓発の両面から、人の行動を促す仕組みの構築に取り組む！
- ◆アジアの他国との協働と、環境だけでなく社会の多様な要素を勘案した総合的に幸福度の高い社会づくりを通して、世界における日本のプレゼンスを向上させる！
- ◆留学・海外勤務を通して多様なものの見方を学ぶ！

【公務員試験についてのアドバイス】

アドバイスなどできるような良いお手本ではないので、ご参考までに自分の経験を書かせていただきます！

1)教養試験

- ◆知能分野：市販の問題集を買い、いくつか問題を解いてみてパターンをつかみました。
- ◆知識分野：個別指導のアルバイトもしていたので大丈夫かなあと思い、特に対策していません… 時事は参考書を買うもパラリとしか見ず、当然試験には活かされませんでした。

2)専門試験

学科の国家公務員試験対策のゼミでいただいた過去問プリントを解きました。

3) 政策論文・グループディスカッション (GD)

- ◆政策論文…特に対策していません。
- ◆GD…旧試験形式の時に受験したため、試験でGDはありませんでした。ただ、官庁訪問対策になるかなと思い、学科の友達とGDの練習をしていました。
(環境省の官庁訪問ではGDはありませんでした)

4) 人事院面接

聞かれそうな代表的な質問に対する回答の準備と、それを話す練習を簡単にしました。

5) 官庁訪問

5-1)官庁訪問全般の印象

官庁訪問の準備としては、

- ①聞かれそうな質問に対する回答を練る&答える練習
- ②マ○ナビの模擬面接シミュレーターで受け答えの練習
- ③社会問題全般に関するじぶんの意見を(日ごろから)考える
を毎日コツコツとしていました。

5-2)失敗した・苦勞した点

(他省で) 官庁訪問が長引いて疲れが出てきてしまい、面接時に「疲れている?大丈夫?」
と言われてしまったときは、「しまった!」と思いました…。

また官庁訪問期間中はずっと東京に泊まっていたので、週末などは一人でじっと重圧に
耐えなければならないのが、結構辛いと感じました。

【環境省を志望されるかたへのメッセージ】

◆環境省の特徴はここ!

環境省の特徴は色々あると思いますが、職員の方々が皆さんとても人当たりがよく(でも
強い芯もあり)、自分がある場で働いている姿をはっきりとイメージできたことが、私にと
って環境省を志望することを決心するにあたり大きな決め手となりました。

◆最後に一言!

官庁訪問では、もしも精神的・体力的に余裕があれば、色々な省庁をまわることをぜひ
お勧めしたいと思います。私はもともと環境省のみ訪問するつもりでいましたが、インタ
ーンの際、先輩職員の方々に「せっかくの機会だからいろいろな省庁を見てみるといいよ」
とアドバイスをいただき、他省も訪問することに決めました。実際、他省の方のお話を
聞くことで自分の考察を深めることができただけでなく、就職活動という範囲を超えて有
意義な経験となりました!

基本データ
【専攻】
開放環境科学専攻
【学年、性別】
博士前期課程 2 年、男性
【年齢】
24 歳
【試験区分】
理工IV (現 化学・薬学・生物学)
【国家公務員試験合格年度】
平成 23 年度
【官庁訪問時期】
春
【説明会参加回数】
10 回
【併願した省庁 (第一クール訪問順)】
環境省→経済産業省

【就活のスケジュール】

- 〈学部 3 年〉
- 9 月 霞ヶ関 OPEN ゼミをきっかけに国家公務員を目指す→はじめて省庁内に入り、各省庁のミッション・ビジョンを聞いて興味を抱く
- 10 月 勉強を始める→とりあえず教養から対策
- 〈学部 4 年〉
- 6 月 国 I 一度目のチャレンジ失敗→二次の専門に課題
- 9 月 前回の反省を生かしつつ、研究と並行して対策開始→専門を中心に
- 〈修士 1 年〉
- 6 月 国 I 最終合格をもらうも官庁訪問はせず→修士は卒業するつもりであったため
- 9 月 経済産業省の 1week インターンシップに参加→ディスカッションを重ねるインターンであり、頭の使い方を学べた
- 12 月 民間の就活が始まり、官庁の説明会にも参加を続ける→官庁の志望度が高かったが、民間も興味のある業界については OB 訪問もしたりした
- 3 月 民間での面接練習が思うように重ねられず→不安でいっぱいにななかでも、自分とは何か、自分のやりたいことは何かを突き詰める日々

〈修士2年〉

4月 官庁訪問で環境省と経産省を回り、環境省に決める→官庁訪問中が一番成長したと感じた

【私はこんな人です】

大学時代はテニスサークルに所属し、いわゆる「大学生活」を満喫しました。部長を務めた経験もあり、本当に様々なことを学ぶことができました。また、大学院に入ってから授業を通して知り合った仲間と勉強会を作り、月に一度議論する場を設けて幅広い議題についてディスカッションを行なっています。皆就職も決まり、結果として多種多様な業種の仲間が集まったことから、毎回非常に刺激を受けています。

また、私は日々学んだことや読書後の感想、新聞や雑誌の切り抜きなどをノートにまとめ、自分の考えをそのノートに書き残すようにしています。ちょうど修士一年の夏頃から始めた習慣ですが、このノートをつけ続けていたことが最も自分の成長に繋がったと感じています。

【趣味、特技】

◆読書、テニス、タップダンス

読書については、ミステリー小説や歴史小説からビジネス書や新書など様々な本を読みます。最近では生産性を上げるスキルが紹介されているビジネス書をよく読んでいます。

テニスについては、大学院に入ってから研究室の仲間と定期的にやることで続いています。研究ばかりだと体を動かすことがないので、良い気分転換にもなっています。

タップダンスについては、高校時代に学園祭の出し物でやりました。夏休みに教室に通って必死に練習してやり遂げた経験は、いまでも鮮明な記憶として残っています。

【志望動機】

〈環境に興味を持ち始めたのは〉

出身は名古屋なのですが、小学生の頃から再生紙を自分たちで作ったり、近くの川の汚染を調査したりと、環境に触れる機会は多くありました。また、子供の頃からずっと慣れ親しんできた公園が万博会場になってしまったこともあり、万博会場の重要な意義もわかる一方、今までであった環境が変わってしまうことに複雑な気持ちを感じたことも覚えています。そのような経験から漠然と環境に興味を持ち始めました。

〈なぜ環境省〉

環境問題はこれまで当たり前とってきた環境が当たり前でなくなることから起きる問題であり、その解決には全く新しい考え方が求められます。そのようなこれまで経験したことのない課題に全力で取り組む職員の方々の姿勢に魅力を感じ、環境省を志望しました。

また、原子力関連やポスト京都議定書をはじめとして、環境行政は転換期にきていると思います。そのような転換期の中に身を置くことで、自分自身のスキルを高め、様々な問題の解決に取り組みたいと感じたことも志望の動機となっています。

<入省して実現したいこと>

地球温暖化問題をはじめとして、環境問題は地球全体の問題となっています。そのようななかで、発展途上国との関わりは非常に重要になってくると考えており、発展途上国にもアプローチした制度を作り、世界を巻き込んで環境をよりよいものにしていきたいと考えています。また、環境と経済はトレードオフの関係にあるとも言われている一方で、環境を良くするビジネスも生まれてきています。そこで、そのような環境ビジネスがより普及しやすいような政策の立案にも携わりたいと思っています。

【公務員試験についてのアドバイス】

1)教養試験

基本的に市販の過去問問題集を中心に勉強しました。特に社会系科目では大学入試に使った参考書が役に立ちました。

2)専門試験

とにかく過去問を取り寄せて解くことが重要だと思います。頻出分野に関しては詳しい解答の載っている基礎問題集なども解いていました。

3)政策論文・グループディスカッション

論文については、自分の得意分野を作っておき、そこへ論点を持って行くことが重要だと思います。普段から興味のある分野については、具体的な政策提案ができるように考えをまとめる練習を行っていました。

4)人事院面接

なぜ公務員になりたいか、そのなかでなぜ国家公務員になりたいかということをじっくり掘り下げて考えておくことが重要です。

5)官庁訪問

5-1)官庁訪問全般の印象

自己PRから始まり、その内容に対する質問や具体的政策提案などが基本的に質問されたことでした。とにかく、黙ってしまっただけはおわりなので、想定外な質問にも慌てずしっかりと答えるよう心がけていました。また、面接を重ねるたびに各面接で学んだことを着実に自分の糧としていくことも大事だと感じました。

5-2)印象に残った面接官とのやりとり

具体的政策提案において、その実現性について突っ込まれたことが何度かありましたが、そこで質問を通してアドバイスをいただいたことが印象に残っています。

5-3)失敗した・苦勞した点

官庁訪問後半の大事な面接にて、学生時代に取り組んだことについて質問された際、研究について話すことを忘れてしまったことです。その後なんとか挽回できたのでよかったです。面接中は冷や汗だらだらでした。

【環境省を志望されるかたへのメッセージ】

<環境省の特徴>

環境省は霞ヶ関の中でも若い省庁であり、省庁内にもその勢いからくるパワーが満ちあふれています。また、人員が少ないが業務内容は広がる一方であるために非常に忙しいですが、その分若手にも責務ある仕事が任されるため、早い段階から刺激的な仕事をすることができます。

<最後に一言！>

就職活動においては、自分が何を成し遂げたくて、それを成し遂げられる環境がどこにあるのかを突き詰められなければ、満足した就職はできません。今一度自分のやってきたことを徹底的に見直し、自分がどんな人間であるかを考えてみてください。そして、そこから自分のやりたいことが何かを考え抜いてください。その中で国家公務員という仕事も選択肢の一つとして考えてみると世界が広がるかもしれません。

また、自分の興味のある分野はもちろん、幅広い視野を持てるように多様な分野の本を読むことをおすすめします。そしてそこで思ったことは必ず形にして残すように心がけると、確実に自分の財産になっていくと思います。

編集後記

最後まで読んでいただきどうもありがとうございます。

事務系と比べると地味なつくりかもしれませんが、中身では負けていないつもりです。

環境省とは職員数が 1300 名程度の小さな省庁ではありますが、各メンバーが非常に個性豊かであることと仲が濃密であることが特徴だと思われます。実は表紙の写真は内定者どうしが息抜きに遊びに行った際に撮影した写真を使用いたしました。

就職難が叫ばれる時代で

どのように生きるか多々悩む時代だと思われませんが

皆様方が進路を決定する、国家公務員・環境省を知る上で、

この冊子が少しでもみなさまのお役に立ちてれば幸いです。

最後になりましたが、この冊子を制作するうえでご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

平成 24 年 11 月 編集担当者